

The Japan Institute of
Architects Kyushu branch
公益社団法人 日本建築学会九州支部

DEC.2020

BULLETIN Kyushu BRANCH

九州で活躍する建築家のための情報誌



Contents

- 支部長挨拶 P2
- オピニオン P3-P4
- おしえて P5-P6
- とりせつ P7-P11
- トピックス P11-P12
- あのこと P13-P14
- よかもん P15
- よかところ P16-P17
- わさもん P18-P19
- お知らせ P20
- 委員会報告 P21-P24
- 地域会活動報告 P25-P35
- 編集後記 P36



支部長挨拶

2020年も残り僅かとなりました。今年は会員の皆様にとってもコロナ禍での対応に苦労も多かった年であったかと思えます。

九州支部の主な事業も見送る状況が続いておりますが、各地域会の活動においてはオンラインでの例会開催など工夫を凝らしながら、この状況下でもできる事から活動を再開しています。先日は北福岡地域会主催の日韓学生ワークショップに参加しました。今年で22年目となる北福岡地域会が長年取り組んできた素晴らしい国際交流活動です。九州から5大学、韓国から5大学の学生チームが私から始まる公共空間をテーマとした作品を発表し、講師の中山英之氏(JIA新人賞)を交えながら熱い議論が交わされました。リモートでの開催は同時通訳など大変なご苦労があったかと思えますが対面型に劣らないこの成果は、今後の九州支部活動の新たな指針を示してくれたかと思えます。実行委員の皆様、大変お疲れさまでした。

また、九州の設計関連団体として新たな取り組みが始まろうとしています。熊本地震の教訓から、九州で未曾有の大災害が発生した時に備え、設計4団体(JIA、建築士会、建築士事務所協会、JSCA)が団体の枠を超えて共に支援活動に取り組むというものです。先日、JIAが幹事役となり九州全域の代表者会議が開催され、まずはワーキンググループを立ち上げ設計4団体による災害ネットワークの骨格づくりをスタートさせる事が決議されました。

熊本地震では初動の応急危険度判定から罹災調査、建築相談、耐震診断、文化財修復など建築専門家による支援活動は膨大に渡る事を私たちは経験しました。設計関連団体が協働して災害対応へ取り組む体制づくりは、県単位では存在しますが広域での連携は画期的な試みとなります。まだまだワーキンググループが発足したばかりで具体的な議論はこれからですが、私たち建築家の職能が社会的評価を得るためにも、この取り組みを確かなものにして参りたいと決意している所です。

支部長報告としては以上ですが、まだ枠が余りますので、ここからはJIAの魅力について少しお話しさせていただきます。

松山 将勝 (九州支部長)



若い世代の建築家からJIAの魅力って何ですか?と聞かれる事があります。JIA活動の公益性や自己研鑽の場である事は言うまでもありませんが、私はいつも「人が財産」だと伝えています。私は2005年にJIAに入会しました。37歳の時です。事務所もまだ不安定な時期で実務だけで精一杯の状況でしたので、入会後も殆ど顔を出さない会員で、JIAの魅力すら分かっていない人間でした。そんな時期が7年続いたある日、前支部長の川津悠嗣さんが事務所に訪れ、福岡地域会の総務委員長になってくれないかと依頼されたのが私の転機になり、それから見る世界は私の人生観も変えてくれました。それまでは建築家という仕事は作品づくりだけやっていたらいいという考えで自分の世界観だけで生きていました。恥ずかしながらJIA活動を通して建築家の社会的役割がこんなにあるのかという事を学びました。その学びも私の思考を変えてくれた大きな要因でしたが、なんとと言っても高い知見を持った先輩方とつながりを持てた事がかけがえのない財産になりました。技術的な助言はもとより、事務所運営やトラブルへの対応など、常に降りかかってくる悩みや不安をいつも親身になって相談ののってくれる先輩方との出会いがあったからこそ、今日まで踏ん張って来たと心からそう思います。JIAの会員というだけで血のつながりを持つ程の関係になれる。それがJIAの魅力であり、まさに「人が財産」だと思っています。

私に支部長のお声がかかった時、身分不相応とも思いましたが、これまでの恩返しができるかと、この大役をお引き受け致しました。

そんな想いもあり今年度のテーマを「未来への結東」という言葉にしました。そんな事をおもいながら、2020年も終わろうとしています。

今年は何もできないままで終わり申し訳ない気持ちで一杯です。

来年は笑顔でお会いできる事を楽しみに、執行部一同頑張っ参ります。

皆様、良いお年をお迎えください。

2021年が皆様にとって素敵な一年になりますように。

名誉会員の賞受けるまで

日比生 正 (福岡地域会)

私が日本建築家協会に入会したのが1967年（昭和42年1月31日）です。

現在で53年間日本建築家協会に在籍しています。紹介者は志賀先生（11年勤務しました）と草野さん（学校の先輩）2名で、入会には調査委員が会社に来て面接を受けたのであります。入会当時は九州支部会員が20数名だったと思います。日本で認められた建築界団体が建設省承認の建築士事務所協会専兼が唯一の団体であり日本建築家協会は社団法人として建設省承認の団体でなく、そのため建設省や政治団体、国会に働きかけるために東京銀座通りをプラカードかかげてデモをしたのに九州から私一人が参加しました。建築士事務所協会は専兼一緒の団体であり、私たちは入会できないと云って専業のみの九州設計監理協会を作り私が初代会長となりました。その後建築家協会と一緒にあって会員も多くなり発展し、私が九州支部長になりその時の会長が丹下健三氏でありました。丹下氏とは西鉄グランドホテルに一泊され時、色々とお話したことなど思い出されます。色々とお話をしましたが、本年令和2年2020年6月26日名誉会員の証として六鹿正治会長よりお受けして、10月26日12時より名誉会員としてのメダル授与式がニューオータニホテル14階千羽鶴の間にて13名の出席をいただき行われ、大変名誉なことでもうれしく受領致しました。今後建築家協会の諸会合にはメダルを下げて出席させていただきます。



経歴
 1935年 生
 1970年 日比生設計開設
 1975年 日比生設計株式会社
 1967年 日本建築家協会入会
 1987年 日本建築家協会九州支部 副支部長
 1994年 日本建築家協会九州支部 支部長
 現在に至る

九州支部 副支部長 佐々木 寿久

2020年10月26日(月)メダル授与式とお祝いの会が催されました。参加者13名で日比生先生を囲み和やかなムードでお祝いができ、入会時のエピソード、当時の建築事情など話は尽きることはありませんでした。2019年夏、私が初めて日比生先生に名誉会員推薦のお話をした時にとっても喜んで頂いた事をはっきりと覚えています。お祝いの会では乾杯の音頭を井上福男先生がとられ、当時支部の旗を作った事やよく語り飲み明かした事、海外UIA大会の事などが紹介されました。西岡先生からも今後も日比生先生と共にJIA発展の為に尽くしたいとの言葉がありました。松山支部長からは日比生先生をはじめ歴代九州支部長があるから今がある歴史を引き継いでいきたいと感謝をお伝えしました。

最後に今後のJIA会員の皆様へ、とにかく楽しくJIA活動をやってもらいたいと締めくくり閉会となりました。



メダル授与式とお祝いの会



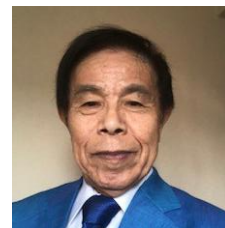
フェロー会員への道すがら・・・。

鈴木 基正 (北福岡地域会)

この度、フェロー会員へ御推挙頂いたことは栄誉なことではありますが、諸々の活動や実績をもった先輩や友人が多数居る支部・地域会だけに私への推挙は誠に気恥ずかしい思いでしかありません。会員の協力を得て建築展の立ち上げに行動しただけなのに・・・勿体ないことです。・・・人間の道場であり舞台である建築。

ここまで50余年の創作活動はとても幸福な時間でした。しかしこれほど重大な使命をもつ職業であっても個人での職能の広報活動は多難でした。その当時、素晴らしい建築を目にした一般市民はそれを施工会社の作品と捉え、設計者の存在が話題になる事は殆どなく日陰の存在でした。設計の職能に内在する社会的使命を広報し理解を得なければ設計界に“明るい未来無し”と自問しながら夜を徹して没頭していた日々。。そんな頃に待望の新日本建築家協会JIAが設立され地域会も立ち上がりました。従前組織の建築設計監理協会は業者の団体のように思えていましたが“建築文化の創造と発展に貢献する事”を掲げるJIAは文化的・芸術的な思想と人格形成の綱領を併せもつ理想的な団体であることに魅力を感じJIAの一員として参加できた事は感慨深いものでした。それから10年余りを経た頃、私に地域会代表の役割が与えられたので、この機会に設計職能の認知度が上がらない当地域で、行政の応援を得て広く市民への広報をめざす作品展を計画したのです。企画ではJIAの存在を表すために、設計界の日本代表を自認する意を以て公立美術館での開催、JIA新人賞受賞建築家の作品展示を前提に事前にJIA本部との折衝は終えていました。

当時北九州市には磯崎新氏による市立美術館も完成しており早速施設管理者である行政当局へ出向きJIA設立の経過・組織・活動指針・新人賞作品展等の説明をした上で、当地のJIA会員の優れた作品を市民に広報するため市立美術館での作品展を開催したい・・・と使用許可の申し出をしました。ところが無碍に却下され「当地の設計



者の作品は美術館に展示するには値しない・・・」と。我々の広報不足があったにせよ大変無念な思いでした。

それでも納得できず管理当局の頭越しに美術館長への直談判へと行動を変えました。美術館長は目的を正面から受け止めてくれJIAへの関心も高く数日後に使用許可はおろされたのです。まさに新日本建築家協会（JIA）組織を背景に、揺るぎない自信を持ち行動できたからこそこの成果でした。日本を代表する高名な大先輩たちの組織下に居る自分を認識できた瞬間でも有りました。

こうして北福岡会会員の結晶として、第一回建築展は本部の応援も得て新人賞建築家による記念講演会も北九州市立美術館で開催できここに地域会活動のひな形が生まれました。無我夢中で開催できた初回の事を想うと、現在の北福岡会の活動は眩しくさえ思えます。毎年開催の北福岡会の建築展には韓国から複数の大学が参加し日韓学生による合同ワークショップも定例化し新人賞建築家が毎年コメンテーターを努めてくれています。この光景はあたかもミニ国際建築展のようでもあります。変遷を遂げながら向上し躍進している北福岡会会員の今の姿は誇るべき活動であります。この一連の活動は日本建築家協会があればこそ、そして本部と地域会の強い結びつきによる成果でもありました。

経歴

- 1942年 静岡市にて出生
- 1966年 大阪工業大学工学部建築学科卒業
- 1966年 殖産住宅株式会社 入社
- 1971年 殖産住宅株式会社 退職
- 1972年 スズキ設計室開設
- 1975年 株式会社スズキ設計に組織変更
代表取締役社長に就任
- 1991年 西日本工業大学工学部建築デザイン学科
～2017年 非常勤講師に就任
- 2018年 株式会社スズキ設計組織変更により
代表取締役会長に就任 現在に至る

仏壇が呼んだ、、加世田麓のまちづくり

2010年2月、加世田麓の父の生家を購入されたA氏から突然、私の父に連絡をいただき、仏壇の処分に父と私、民家に詳しいJIA先輩の川上恵一氏の三人で、鹿児島へ向かった。加世田麓の旧鯉坂家住宅は明治30年代に祖父の兄、鯉坂正一郎が建てた古民家で、川上先輩は着くなり「こりゃ壊したらいかんで」と発し、その夜、老後の家の敷地として購入された近隣のA氏、親族、教育委員会、市議、地元のまちづくり関係者が集まった。その席で、A氏が、石垣・生垣を撤去し更地にすることを話され、川上先輩が「そりゃいかん」、市や地元の方々も「石垣を壊すのは、、、」と躊躇したところ、A氏が「それほど大切なものなら一年待とう」と回答、旧鯉坂家住宅は、命拾いすることになった。

前後するが、私は当時、JIA関東甲信越支部都市デザイン部会長で国土交通省の石崎和志企画官から2009年10月に「住まい・街づくり担い手」事業の説明を聞いたば

鯉坂 徹（鹿児島地域会）



かりだった。そこで、地元のまちづくりNPOプロジェクト南からの潮流と協同し応募、運良く2010年度の住まい・まちづくり担い手事業の建築・まちなみ部門の支援団体に決定した。早速、JIA本部の再生部会（現関東甲信越支部再生部会）でお世話になっていた後藤治先生に連絡し、協力をお願いし、2010年6月に、加世田麓でプレ勉強会＋街歩き「加世田の街並みを考える」を実施した。その際、後藤先生から鹿児島大学の協力がないと今後の活動は難しいとお話があり、鹿児島大学の木方十根教授に参加をお願いした。2010年にはまず悉皆調査、そして、10、12、1月に街歩きやシンポジウムを実施、東京理科大学川向教授 八女市北島氏、都市環境研究所小出和郎代表等が駆けつけてくださった。この間に、文化庁の重伝建や登録有形文化財の調査官の現地視察があり、加世田麓の重要伝統的建造物群保存地区への可能性が浮上していった。



2010年2月の話し合い



2010年の勉強会_旧鯉坂家住宅にて



2010年春の旧鯉坂家住宅



応急修理した旧鯉坂家住宅

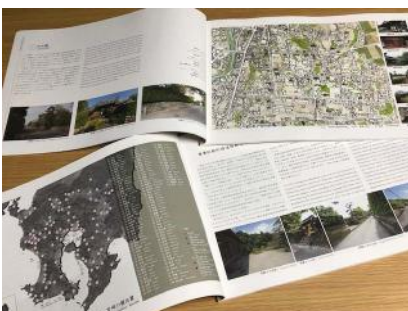


2011年、担い手事業は採択されなかったが、再度2012年の担い手事業の支援を受けることができ、防災に強いまちづくりに向けてシロアリ駆除専門家の廣瀬博宣氏、樹木医船橋修一氏、大窪健之氏、小浦久子氏らの勉強会が開催された。この間、工学院大学後藤研究室と鹿児島大学木方研究室の実測調査が進められ、重要伝統的建造物群保存地区へ向けた報告書が準備されていった。また、旧鯉坂家住宅の敷地を、南さつま市が土地交換により宅地建物を所有し、旧鯉坂家住宅は加世田麓のまちづくりの拠点として活用されていく。この頃、鹿児島大学から実務者を教員に採用したいとの公募があり、私は



2012年に応募し、三菱地所設計を退社し

2013年4月に鹿児島大学に着任した。加世田麓では、旧鯉坂



麓まち歩きマップ 表紙

麓まち歩きマップ コンテンツ

家住宅が登録有形文化財となり、また、『かせだ歴史まちづくり協議会』が発足、『加世田麓周辺地区街なみ環境整備

事業』の策定に向けた委員会がはじまり私も委員となり重伝建を目指して会議や意見交換が重ねられていった。

大学に着任してからは、文化庁近現代建築資料館の坂倉準三展の制作、東京駅の百年展の模型製作、前職で関わった国際文化会館等々の保存再生に関わりながら、鹿児島県宮崎県にある旧薩摩藩の麓集落の調査や研究を行ってきた。現在、麓まち歩きマップは三版を重ね、大学で無料配布を行っている。

加世田麓は、地元の方々や行政の尽力の結果、2019年12月によく百二十番目の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。私は2013年から水野支部長時代のJIA九州支部に移り、鹿児島地域会で活動させていただいている。私が終の住まいとして購入した加世田麓の古民家の改修にも地域会のメンバー馳せ参じてくださり、その古民家もようやく住める状態になりつつある。2018年秋、鹿児島地域会の下山道男氏と、研究室の学生達と設計した「シラスコンクリート住宅」が竣工、2020年のJIA優秀建築選（100選）に選定されたのは望外の喜びだった。これからも、加世田麓のまちづくりに取り組みながら、JIA鹿児島地域会の方々と建築を語り、麓を巡るのが楽しみである。



シラスコンクリート住宅

建築設計界と九州支部発足までの歴史(青文字はJAA、JIAの歴史を示す)

- 1886 (明治19) 造家学会発足
- 1897 (明治30) 建築学会に改称。
- 1907 (明治40) 学会が「設計募集規定」を制定。
- 1909 (明治42) 学会が「建築技師報酬規程」を制定。
- 1914 (大正 3) 全国建築士会設立 (1947年 日本建築設計監理協会に名称変更)
- 1915 (大正 4) 全国建築士会が日本建築士会に名称変更
- 1917 (大正 6) 日本建築士会が「建築士の業務報酬規程」「建築士徳義規約」を制定
- 1925 (大正14) 日本建築士会が「建築士法案」を提案。以降1940年まで法制定運動を展開
- 1931 (昭和 6) 日本建築士会が「建築競技執行規準」制定
- 1947 (昭和22) 日本建築士会が日本建築設計監理協会に名称変更
- 1948 (昭和23) UIA(国際建築家連合) パリで発足
- 1950 (昭和25) 建築基準法、建築士法制定さる
- 1952 (昭和27) 各地に建築士会設立さる。日本建築士会連合会設立、会長に中村伝治氏
- 1954 (昭和29) 国立国会図書館公開コンペでミッド設計同人が入選
- 1955 (昭和30) 日本建築設計監理協会がUIAに加盟、UIA日本支部となる。会長に山下寿郎氏
- 1956 (昭和31) 日本建築設計監理協会が『日本建築家協会(JAA)』に改称、会長に松田軍平氏 (S33まで)
- 1957 (昭和32) 建築家協会、建築学会、建築士会連合会の三会協定「建築設計競技規準」制定
松田軍平 (JAA会長)、松田昌平氏 (1948年入会) の呼びかけにより「福岡建築家グループ」発足。
1961年支部結成まで関西支部に所属。毎月例会を開催して会員の交流を図る。
例会には造園家、彫刻家、染色家、画家、建築家など多彩なゲストを迎える。
会場は電気ビル、レストラン「エスキモー」など。
- 1961 (昭和36) 前川國男 (JAA会長S34～S36) 松田昌平 (九州支部長S36まで) JAA九州支部結成。会員14名。
「くらしの尺度 —モジュール— 展」
- 1962 (昭和37) 全国建築士事務所協会連合会設立。宮崎市庁舎疑似コンペ問題おこる
村野藤吾 (JAA会長S38まで) 松田順吉 (九州支部長S40まで) 見学会。座談会。作品展。
建築評論家 浜口隆一氏講演会。
- 1963 (昭和38) 国立劇場公開コンペで竹中工務店岩本博行グループ入選。国立国際会議場公開コンペで大谷幸夫入選
「すまいの工夫」展。「窯業と建築」シンポジウム。星野教授座談会。
- 1964 (昭和39) 坂倉準三 (JAA会長S40まで) 「新しい建築と家具」展。会員作品展。坪井善勝教授講演会。
- 1965 (昭和40) 家協会が「建築設計監理業務法案要綱」を発表。支部連絡協議会「とり市」にて (計22名)。
浜口隆一氏を囲む会。
- 1966 (昭和41) 全事連が「建築設計監理業法案要綱」を発表。士会連合会が「建築士法による業務の報酬規程」を

- 制定。松田軍平（JAA会長S44まで） 大隅弥次郎（九州支部長S44まで） 熊本市で例会。
第1回「九州山口工高生コンペ」。
- 1967（昭和42） 朝日新聞シンポジウム「住まいの広場」講師派遣（1970年まで21回）。
- 1968（昭和43） 全事連の業法立法運動高まる。家協会が強力に反対運動を展開。関連して家協会と鹿島守之助氏との間で「設計施工一貫性論争」おこる。霞ヶ関ビル竣工。福島県文化センター疑似コンペ問題。
欧州旅行団出発。支部連絡協議会（別府市）。日照権問題（福岡市）
- 1969（昭和44） 最高裁庁舎コンペで岡田新一氏入選。家協会が銚子市の疑似コンペで二会員を除名。
九電体育館で建築展。KBC ラジオ「住まいと暮らしの相談会」出演（22回）
- 1970（昭和45） 市浦 健（JAA会長S46まで） 福永正雄（九州支部長S46まで） JAA 第1回大会（京都）。
日本万国博開催。九州支部10周年祝賀会（山の上ホテル）
- 1971（昭和46） 八女疑似コンペ問題おこる。家協会が八女問題で一会員を戒告。ほか疑似コンペ多発
- 1972（昭和47） 三会協定建築設計競技規準、業務報酬規程について公正取引委員会が家協会に事情聴取、調査開始。
大江 宏（JAA会長S50まで） 岡田 進（九州支部長S48まで） 沖縄持出し例会（13名）。
支部連絡協議会（京都）。関東支部設立協議。
- 1973（昭和48） 参議院商工委員会で公取問題とりあげられる。八女問題で家協会員が会長を訴訟、裁判はじまる。
全事連が業法制定請願運動を展開。家協会が反対請願と職能法制定の10万名目標の署名運動を展開。
古沢専務理事を迎えて職能法説明会。福岡市長へ設計発注方式改善要望。
- 1974（昭和49） 大江 宏（JAA会長） 大部友之（九州支部長S50まで） 田辺、鬼頭氏を迎え職能法討議。
福岡地裁に出頭して八女問題についての聴取。
- 1975（昭和50） 建築士も事業者公取委員長予算委で発言。家協会が嚴重抗議。各地に抗議運動広がる。
公取委家協会に警告書。士会連合会、全事連にも行政指導。公取委が連築関係団体の自主的改善措置を督促。士会連合会、全事連は報酬規程の廃止と事業者団体の届出を決定。家協会は臨時総会で「事業者団体届出をしないことを決議。公取委家協会に『勧告』」
全事連の社団法人認可、初代会長に山下寿郎氏。家協会が違設省の全事連運営通知に反発、専業事務所への結束めざす。東京、大阪をはじめ各地で専業団体の設立相次ぐ。日本建築設計監理協会連合会設立、初代会長に松田軍平氏、専務理事古沢鉄之助氏。
第6回大会（福岡）都ホテルで開催。専業事務所団体設立の動き高まる。
- 1976（昭和51） 家協会が公取委勧告を拒否、審判にもちこむ。この年第4回審判まで。
八女裁判が和解に、「家協会ニュースNo. 437」で経過報告。
建設省が「建築設計工事監理業務報酬調査委員会」を設置。
海老原一郎（JAA会長S54まで） 三島庄一（九州支部長S52まで） 新団体設立協議会発足。九州各地に遊説。会長、専務理事より業務法説明。
- 1977（昭和52） 公取委審判第5回より第12回まで・九州建築設計監理協会設立、設監連に加盟。

家協会、設監連が建築設計監理業務法制定合同推進本部を設置、百万名目標国会請願署名運動を展開。
九州建築設計監理協会設立。JAA九州支部82名。[九設監会長：岡田進]

1978（昭和53）公取委審判第13回より第20回まで。家協会は公取委に上申書提出。

和田吾市（九州支部長S54まで） JAA九州支部と九州設監合同による特記仕様書刊行を企画。

1979（昭和54）建設業7団体が「建築設計監理業務法案」に反対意見陳情。家協会、設監連が反対声明発表。
公取委第22回審判で審査官側最終意見陳述。

家協会が通常総会で定款・憲章・倫理規定・設計競技規準の改定、報酬規程の廃止、「（仮称）建築設計監理業務報酬について」の制定などを決定。

6/21第23回審判で家協会代理人が最終意見を陳述して結審となる。8/29公取委審査官の審決案提示。

9/4家協会は公取委審決案に「異議申立権等の放棄」を回答。9/19『審決』。

建設省が「建築士事務所の開設者が請求することのできる報酬の基準」を告示。

西日本新聞「すまいのABC」連載。公取審決で支部連協 [九設監会長：大隅弥次郎]

1980（昭和55）全事連が日本建築士事務所協会連合会（日事連）に名称変更。

芦原義信（JAA会長S56まで） 草野勝次（九州支部長S56まで） UIA マニラ大会に参加（12名）。
JAA憲章改定討議。福岡県庁舎保存問題。

1981（昭和56）家協会「建築家憲章」制定。家協会が建築士法改正について建設省へ見解を提出。

[九設監会長：大屋 忠]

1982（昭和57）建築士法改正のための建築審議会開催、その専門委員会委員に國堂会長が選任され、池田委員と共に設計の三業態に対応した法制の整備を求める意見書を提出。

園堂政嘉（JAA会長S60まで） 永島藤昭（九州支部長S58まで） 園堂会長の方針により建築審議会を通じて建築家職能の確立に向けての行動が活発になる。

1983（昭和58）建築審議会が第1次答申提出。第二国立劇場建設計画に提言。[九設監会長：松田順吉]

1984（昭和59）11/1家協会草創70周年記念大会において、JAA懇談会レポートによる建築生産、資格者法等についての討議。建設大臣へ建築士法改正に関しての要望書を提出。

和田吾市（九州支部長S60まで）建築家協会設立70周年記念大会開催。

1985（昭和60）9/27設監連創立10周年記念大会において「建築設計界の再編成を訴える提言」を発表。

11/13家協会第15回大会において円堂会長「建築士行政の転換を求める」と題して基調演説。

設監連創立10周年記念大会開催。[九設監会長：三島庄一]

1986（昭和61）家協会会長に丹下健三氏就任、建築家の糾合をめざす「行動計画」を発表。新団体問題研究会が発足。
家協会が11月理事会において新団体結成へ向けて解散方針を決定。設監連も12月臨時総会において新団体結成へ向けて連合会および単位会の解散方針を決定。

丹下健三（JAA会長JIA会長S62まで） 三島庄一（九州支部長S62まで） JAA九州支部82名。
九州設監協会263社（9支部）。JIA設立と同時に解散。

1987（昭和62）1月 家協会、設監連を中心とする新団体設立準備会が発足。

[5月11日『新日本建築家協会\(JIA\)』設立、初代会長に丹下健三氏。同時に家協会、設監連解散。沖縄共
9地域会設立。JIA会員約7,500名中九州支部453名。](#)

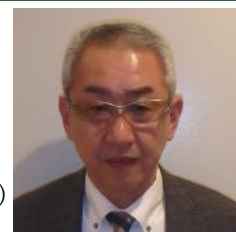
1988（昭和63）建築審議会が第2次答申提出

1988 - 1989 北代礼一郎(会長) 志賀信男(九州支部長)

1990 - 1991 林昌二(会長) 辻隆司(九州支部長)

1992 - 1993 鬼頭梓(会長) 茂木謙悟(九州支部長)

祐徳門前街なみ環境整備計画2018



野中 毅(佐賀地域会地域会長)

佐賀地域会の馬場、三島、川崎会員が参画し、地元建築士会有志とNPO肥前まちづくりデザイン研究会を組織しています。肥前浜宿の伝建計画を皮切りに、鹿島市、佐賀大学と共同でこれまで15年ほどの間に様々なまちづくりの実績を有しています。今回、ご紹介するのは平成30年に策定した祐徳稲荷神社門前町の街なみ環境整備計画です。その一部を抜粋し、過去、現在、未来を比較した内容に編集しました。

【過去】明治29年の大火による街なみ改造

明治29年、祐徳門前町は大火に見舞われた。住民に伝えられた話によると、十数軒が全焼する大火事であったという。その再建において、祐徳門前町の街なみはほぼ現在の姿になった。当時の再建後の写真を見ると以下のことがわかります。

- ・建物がセットバックされ、参道の幅が広がり、桜並木が植えられたこと。
- ・木造2階建、屋根は寄棟造平入で、軒を間口いっぱい広げた建物が連続する景観が形成されたこと。



過去（再建後）の写真

【現在】アーケードの形成

アーケードの形成は昭和40年代のことです。柳屋店主の掛園三郎氏が中心になって、桜並木の撤去とアーケードの建設を取りまとめたといわれています。商店街におけるアーケードの建設が全国的な流行で、祐徳門前町においても、参拝者が雨風をしのぐことができること、店先での販売が容易であることなどの理由から導入されたと考えられます。この時点で、所謂、参道としての和風の趣は消えていきました。合わせて、各店（かつては旅籠



現在の写真

もあった。)の表情も同質化したと言ってもよいでしょう。

【未来に向けて】祐徳門前街なみ環境整備計画2018

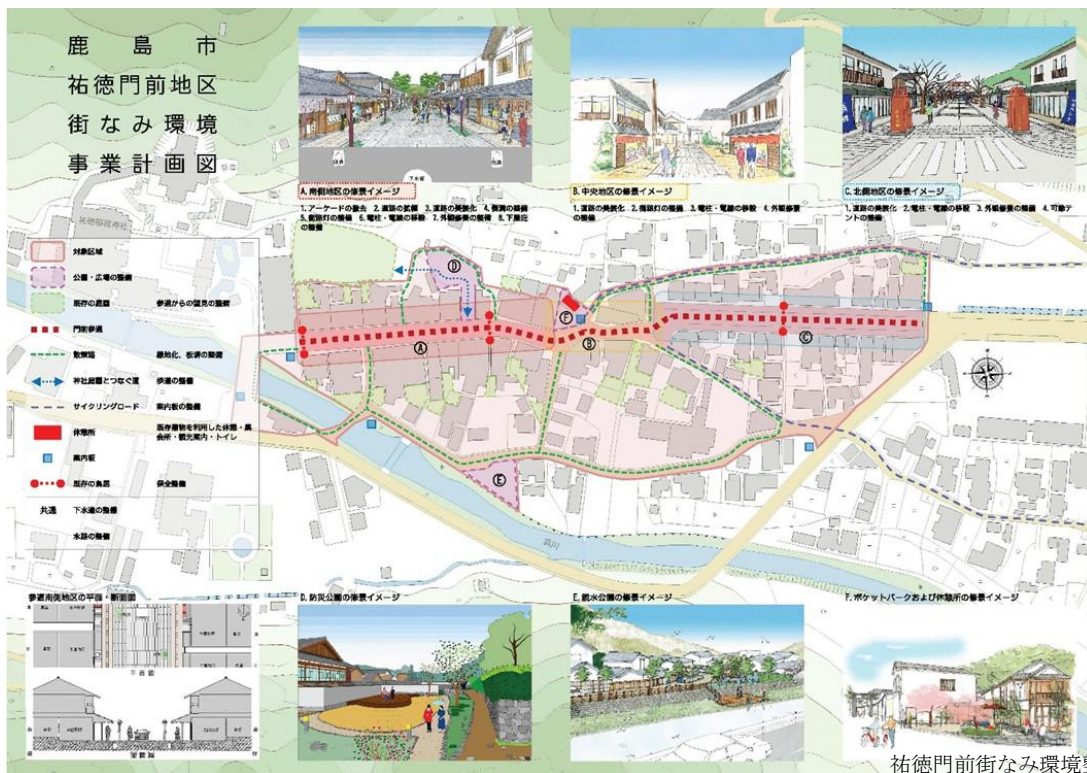
以上の現状を踏まえ、今一度、表情豊かであったアーケード以前の景観への復刻を目指し、祐徳稲荷神社門前町として、更なる活性化へつながる整備とか2階のファサードは改造の手が及ばず旧態然としていました。視覚的に障害壁となっていたアーケードのパラペットを取り払い、軒先を薄くすることによって、これらを歩道レベルから視認化することなども個性を表出する手段と考えました。また、下屋を一定範囲の高さで連続的に設ける

ことによって、通り景観としての連続性とリズムを創り出す整備を目指しています。

各々の建物の履歴に応じた修景を行うことで歴史と文化的景観の保全と創出を図り、公共事業によるインフラ整備と併せて持続可能な地域の活性化の道筋ができることを願っています。

【計画策定後の状況】

今回の事業計画に則り、令和2年より5か年ごとに国交省補助のもと、鹿島市事業として実施化されています。今年度は電柱移設、一部地中化そして助成事業として個々の建物改修で3件が予定され、当研究会のメンバーが担当しています。次年度以降は道路美装化と併せて、下水道整備も並行して進められる予定となっています。私たちNPOは、地元、街づくり協議会に発足当初より参画し、計画者かつアドバイザーとしてお手伝いを続けてきました。刹那のお付き合いの立場ではなく、将にそれぞれメンバーのライフワークとして位置づけられた活動だと自負しています。地方でも、この地に住んでいたからこそ、できているこれらの活動の有難さを思いつつ、今日も希望の地図に思いを馳せています。



祐徳門前街なみ環境整備計画図2018

あのことろ ‘91～ ‘92…JIA九州支部大会 ‘92熊本の思い出～ 「いきいき九州の建築家たち」～

突然にまだ一度の開催がなかった支部大会の開催をやろうと話が出たのは「アーキテクツホリデー ‘91長崎」の懇親会の最中でした。‘91年7月2日の事です。

九州設計監理協会から新日本建築家協会へ移行した後5年経つのにまだ支部での大会開催はなく、当然だと思いました。初代支部長の三島庄一さんが壇上にて長崎会の皆さんに「ご苦労だけこの長崎で支部大会を開いてもらえないだろうか」と要望されました。

長崎会の皆さんはこの大会開催でたいぶお疲れの様子でした。私は「三島さん、ちょっと待ってください！その支部大会は熊本で是非やらせてほしい」と呼びかけました。当時熊本では県のアートポリス事業が開催されていて、世界の著名な建築家等の設計も含めた建物・施設が数棟（20を超えて）完成しており、その視察を兼ねてぜひ熊本の地で支部大会をとお願いしました。

私は自分の席へ戻り、当時の熊本代表幹事であった伊藤琢二さんはじめ熊本からの参加していたメンバーに自分が勝手に行動・発言したことを謝りましたが「わかった。やろう」と同意してくれほっとしました。実はその夜は6月30日に亡くなられた野中卓先輩のお通夜でした。伊藤さんと共にお通夜の欠席を詫び、長崎でのこの会に出席しておりました。野中先輩への追悼の気持ちもあり「ぜひ熊本で！」と言ったことを覚えています。

熊本へ帰り、次の例会で熊本地域会のメンバーに長崎での勝手な行動・発言を詫び、協力を呼びかけました。その上私は皆にまた勝手なことを言ったのを覚えています。「初回の支部大会だから多少の失敗はあっても次回やる他県地域会の参考にしてもらったら良いし、アートポリスの見学も兼ねて来年がチャンスと思えるから」と

吉武 龍輝（熊本地域会）



申し開きました・・・誰一人反対の人はいませんでした。

まだJIAに移行して全国の支部による支部大会が開催されておらず全国に先駆けて初めて支部大会が熊本での開催に向かってスタートしました。当時の熊本会のメンバーは22名でした。



‘92年度となりJIA会長は林昌二さんから鬼頭梓さんへ、九州支部長は辻隆司さんから茂木謙悟さんへ、私

は本部理事を務めることになりました。この年’92の本部での理事会は鬼頭会長の提唱される「建築家資格制度の確立を目指すこと」への模索の段階でした。本部理事となり、本部とのつながりも出来た私は初めての九州支部大会の参加者を一人でも多くし、開催したいとの思いで本部の協力を求めました。それが結果的に「くまもとアートポリス見学ツアー」を全国の会員へ呼びかけ、「九州支部大会 ‘92熊本」とドッキングさせる本部主催の「見学ツアー」の誕生となりました。

こうして ‘92年11月19日、20日の両日「JIA九州支部大会’92熊本」は熊本ホテルキャッスルで開催の運びとな



鬼頭ご夫妻

りました。大会名誉会長として、我が熊本会の大先輩である山田英夫さん、大会会長として茂木九州支部長、大会実行委員長として私

が務めることになりました。

初日19日は、JIA会長鬼頭さん、近畿支部長西部明郎さんより来賓としお祝いの言葉を戴き、「くまもとアートポリス」の紹介のあとに大会テーマ「JIAと地方建築家」についてテーブルディスカッションに移り各テーブル代表者の発表を行いました。休憩の後、午後5時30分よりアートポリスツアーの参加者も同席の上レセプションとなりました。私は実行委員長として、参加して下さった皆さんへ謝辞を述べた以外何を言ったのか全く覚えていません。

大会2日目の20日は①アートポリス見学会②親睦ゴルフ大会のエクスカーションの2班に分かれました。見学した建物は県立装飾古墳館(安藤忠雄)、八代市立博物館(伊藤豊雄)・・・等7カ所。

この大会の出席者の主な方を紹介しますと

- ・来賓出席者 JIA関係 鬼頭会長、中田亨専務含め3名
県関係 県知事、熊本市長、
アートポリスアドバイザー堀内清治先生
他12名

- ・九州支部会員 148名（当時の支部会員414名）

- ・アートポリスツアー参加者31名

（ツアー参加者は東北、関東、近畿、四国等）

参加者合計 194名

こうして書いていて気づきましたが、実名で記した先輩方は皆さん故人となられました。月日が経つのは早いものであれから28年が過ぎております。‘92当時400名を超えていた支部会員は271名となり、初めての支部大会熊本で一緒に活動し、働いた熊本会の当時の在籍会委員は私も含め4名です。‘92年の支部大会以降6～7年経った頃、熊本会ではJIAの制度に対して反発する意見が起こり、一時会員が半数以下に減りましたが今は15名迄に復

帰し頑張っています。

‘92年支部大会から15年後私はまた2年間本部理事を務め、理事会に出席しました。色々な議題の中、私が注目していたのは最初の理事の時鬼頭会長が提唱されていた建築家資格制度の行方でした。資格制度の細部にわたっての検討の時期となっていました…会長も代わり資格



深瀬さん、三島さん、又吉さん

制度担当委員長も代わり変化して行くのは仕方ないとしても制度化していくのは無理で、その上で世の中には認めてもらうのにはあまりにも難しいのではと感じつ

つ参加しておりました。

ここ近年この資格制度に対して建築基本法制定の話が出てきています。世の中に対しあまりにも難しく理解してもらえない制度より、この基本法制定へ方向転換した方がいいのではと思っています。

何年か前の全国大会の基調講演で哲学者の梅原猛さんが「自分は哲学者であり、かなり難易な文章も理解できる方だと思っているが建築家の書いた文章は何度読んでも理解できない」そういう時代もありました。今はさほど感じなくなりましたが…

今巷にあふれる自称「建築家」という言葉を我がJIAがどうするのかは非常に難題だと思えますが、皆さんのご意見は？「あのことろ・・・」から少し話が外れました。



この北九州（まち）のために

ギラヴァンツ北九州のスローガンである。今から6年前私が地域会長の時に「スポーツとまちづくり」をテーマに、シンポジウム・日韓合同学生ワークショップを開催したことをきっかけに当時の横手社長や幹部の方々と親しくなった。しかしそれがチームとの縁の始まりではなく、13年前のチーム発足時（ニューウェーブ北九州）から、夫婦で本条陸上競技場に通っていたのである。サッカーをしていた息子たちが成長し応援の対象がなくなったことがきっかけである。

シャトルバスで試合会場に行く車中や会場で、私達より高齢のご夫婦のサッカー話を聞いて、本当にサッカーが好きなんだと心地よく聞いていた。チームは力をつけ、数年でJ2に参入し着実に力をつけさらに上を目指す中で、新スタジアムが完成した。なんとその年にJ3に陥落し最下位を経験した。翌年に小林新監督の元わずか1年でJ2に復帰したものの、今年のコロナ禍で開幕翌週には中断と様々な出来事があり、前半戦は首位で折り返し1年でJ1に上がれるのではと期待したがそんなに甘くはなかった。しかしいい時も、悪い時でもとにかく応援に駆け付けていた。そしていろんな場所で、会う人ごとに「とにかくスタジアムに行って応援してください」と呼びかけていた、私自身もスポーツを長くやってきた中でスポーツのすばらしさ、特にサッカーのすばらしさを実感していたからである。

スポーツをすること・応援することで心身ともに健康になり、まちが元気になっていく、人と人のつながりが



三迫 靖史（北福岡地域会）

できていく、その中心となるのがギラヴァンツであると思っている。

このまちの誇りとなり、皆の希望となるチームに育て上げるのは私達北九州市民である。

いつもそんなことを考え「いつかJ1へ」ではなく、いつでもみんながスタジアムに集まり「サッカーやスポーツそしてまちについて」語り・飲む、[コミュニティの場となるスタジアムでありチーム]となってほしい。そして停滞気味のこのまちを、サッカーで変えられると本気で思っている。

今回は「私のお宝」というお題で、ギラヴァンツとこのまち（北九州）について書かせていただきましたが、昨日家内にその話をしたら「お宝は私じゃないの？」って言われました。

どちらも私の大切なお宝です、九州の皆さん！我がまちのチームを応援し、建築とスポーツでまちを元気にしていきましょう。1日も早く皆さんと会って語り合える日が来ることを期待しています。



インドを訪れて

学生時代、所属した探検部で、訪れた最初の印象は、砂埃が舞い、乾いたカレーの臭い漂う空気、霞んだ街並みと道端の牛糞、濁った川を流れる動物の死骸と、神秘的な国インドとは、程遠い存在でした。

しかし、訪れる度に、奥深さ、雄大さ、寛容さを知ることになりました。

カルカッタ（今のコルカタ）、デリー、アグラ、聖地ペナレス（今のバラナシ）などの地を訪れました。その頃、インドは日本では馴染みがなく、衣、食、住、また日常の習慣において、いずれをとっても特異な地と映りました。異文化・宗教の建築が混在する都市景観、異なる人種のうごめく人の波など、何をともて経験したことのない、地の底からエネルギーが湧き出る世界でした。

まず訪れた地は、ル・コルビジエ設計のチャンディガール、整然と区画された住居地域に対して、大地を引き裂いて現出した巨大な建築群、庁舎、裁判所、国会議事堂、それぞれが他の存在を拒絶するかのよう、威圧感をもって存在している。

乾いた大地に、乾いた、あくまでも感情を持たない無機質な建築群、それがコルビジエのインドの大地に対する挑戦であり、未来へのシンボルとしての道標、記念碑、墓標となるのか。



州庁舎 チャンディガール

州会議事堂 チャンディガール
1962年 ル・コルビジエ

一見、ヨーロッパにある、キャンパスを思わせる雰囲気のある建物、アーメダバード経営大学、最も尊敬する一人である建築家、ルイス・カーンの作品である。

西 久志（鹿児島地域会）



乾いた大地にありながら、草原の中のオアシスのようで、日差しが厳しい環境のなかで、光と影を建築的に巧みに操っている。その構成がロマネスク建築的でもあり、現象的には柔和で、学生に精神的な安らぎをもたらしている。



次に、12世紀以降の北インドの建築を紹介します。

デリー近郊のクトーヴ・モスク、その寺院のなかで特に注目すべきは、クトーヴ・ミナールである。イスラム建築では欠かせないミナレットであるが、建築材料は大理石ではなく、赤砂岩を使用し、表面にはコーランが刻まれている。もともと赤砂岩はヒンドゥ建築に主に使用されたものであり、もとあったヒンドゥ寺院を壊し、そのタージマハルの原型となっているフマユーン墓廟、四隅のミナレットは見られないが、赤砂岩を使用したイスラム寺院である。このことから、インドにおける初期イスラム建築は、技術とともに、材料においてもインド独自に発展してきた、ヒンドゥ建築を融合することでインド：イスラム建築となる様式を生み出した。

クトーヴ・ミナール
1200年頃

フマユーン墓廟 1560年頃

デカン高原の中に、都市計画に基づいて、アクバル大帝の築いた都市、ファンテプリシークリがある。僅か14年で、見捨てられ廃墟化した都市でもある。

ここの建物も、イスラム建築ではあるが赤砂岩を用

い、壁のない柱のみで建つ、5層からなる大胆な建物もある。建物の形態の基本はイスラム建築ではあるが、インド古来の建築様式や技術が反映されたイスラム建築として生み出された傑出した建物群である。赤砂岩で構成された軒先は日本家屋の軒先に類似し、どこか東洋の匂いがし、都市全体の配置、空間の扱いが、ヒューマンスケールになっているような気がして、愛着がある。



ヒンドゥイズムの結実した寺院建築が、カジュラホのウイシュバナータ寺院である。

重なり合う塔（シカラ）、豊穡祈願のミトナ像が寺院表面を覆いつくし、近くで見ると、圧巻である。寺院自体は、ヒンドゥ教の象徴であるカイラーサ山を具象化したものである。



アジャンタ石窟群とともに知られた、エローラ石窟群がある。この石窟群は、仏教窟、ヒンドゥ教窟、ジャイナ教窟から構成されている。

エローラ石窟群で、特に注目すべきは、ヒンドゥ教窟の宗教と儀礼の世界を胎内に宿したカイラーサナータ寺院がある。内部には、破壊と創造の神であるシヴァ神の象徴であるリングが祭られている。山を削り貫き、完成まで100年の歳月を要したとされ圧巻である。

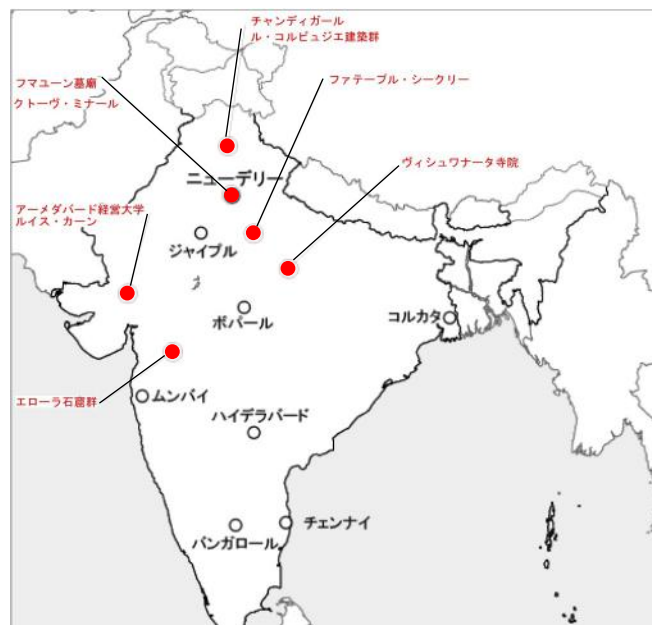
夕闇が訪れる頃、ガンジス川の岸边に向かって、路地を歩いていると、突然、布にくるまれた死体を担いだ一行に出会う。暗闇の中、一瞬、心が、体が、こわばり立ちすくんでしまった記憶は、今でも生々しく心に残



る。この旅により、インドに魅せられ、その後数回にわたりインドを訪れることになりました。

「インド・ヒンドゥ建築考」という論文も発表しましたが、未完成で心残りです。

インドを知ったことで、顧みて日本の文化の一つである、茶道に今は精進しています。機会があれば、いつか、一服の茶を差し上げたいと思います。





中條 雅文 (北福岡地域会)

この度、JIAに入会させていただきました中條と申します。北九州市、福岡市を中心に設計業務をしています。主に店舗、住宅、事務所、集合住宅など手掛けています。

この世界に入ったきっかけは、私が学生時代にアルバイトをしていたレストランが有名建築家の手掛けた店舗だったことです。初めてデザインを施された建築に触れ、その店舗を構成する空間、マテリアル、設備の収まりや人の動線といったことが非常に刺激になりました。そして次第にその店舗の空間に愛着を持つようになり、人の心に高揚感をもたらすことのできる設計という仕事をやってみたいと思うようになりました。

この時に建築家という職業がわたしの将来像の一つになりました。

建築という言葉は一筋縄では語ることでない多くの言葉を包摂していると考えています。クライアントの要望、敷地環境の分析などの作業をこなして行くにあたり、建築という言葉の中に内包しているいろいろな意味を考え、紐解いて、ある種の正解に近づけていく作業を行うことが非常に楽しいです。

私自身は建築を考える上でまだまだ未熟な面があります。建築を実践していくうえで建築分野だけでなく、様々な分野の多くの方々と積極的に接し、多くの知識を取り入れ咀嚼し新たな発想に変えて、歩みを進めていきたいと思っています。

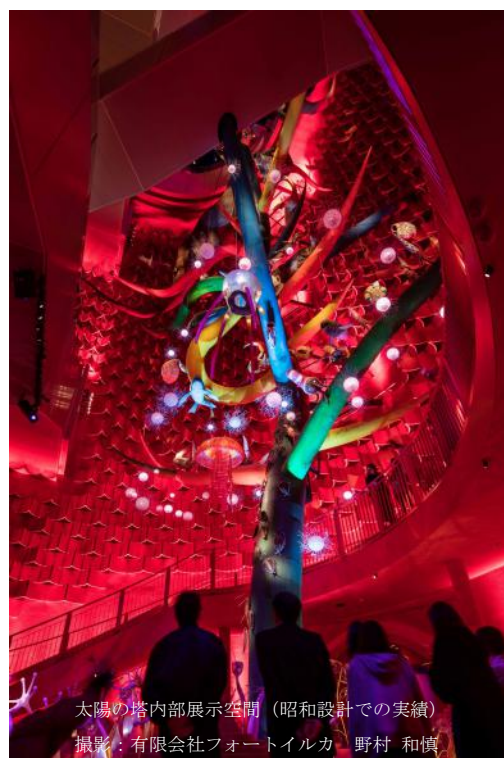
JIAに入会し多くの建築家の方々と出会い、多くの刺激や薫陶を受けていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



久家 一哲 (長崎地域会)

大阪で10年間、組織設計事務所に勤め、現在は地元長崎で活動しております。以前在籍した昭和設計では、太陽の塔、映画 火垂るの墓にも登場する御影公会堂の改修が特に印象深いプロジェクトです。

太陽の塔は人が立ち入れない工作物であったことから、内部公開への道筋が立たなかったこと、形態も複雑でどう図面化すればよいのかなど、幾度となく悩んだことを覚えています。初めて内部空間を見たときの感動を共有したいと、強く思い続けて設計に取り組みました。御影公会堂は戦災後の復旧など幾度となく手を加えられ、オリジナルの図面が完全にはない中でも、同じ設計者の建物を見て意匠を読み解くなど設計を進めました。ともに改修後は国の有形文化財に登録され、歴史をつなぐ役割ができたことは大きな財産です。



太陽の塔内部展示空間 (昭和設計での実績)
撮影：有限会社フォートイルカ 野村 和慎

そんな経験を経て、【過去・現在・未来の時間軸で捉えたときの最適解は何か】を大切に考えています。利用者の声や思いを丁寧に聞き、ニーズを的確に汲み取り今の時代に合う提案し、未来においても価値を増しながら人々に寄り添う建築にしたいと、新築・改修問わず考えています。今は上五島・諫早を中心に住宅・診療所・福祉センターなどの設計をしています。地元上五島で知人からの声が直に聞こえる環境は、今まで以上にやりがいを感じます。BIMはもちろん、様々な環境シミュレーション、シビアになるコストコントロールなど、求められる要素は増えていますが、変化を恐れず地域の人のために提案力や技術力を常に磨きたいです。

基本計画・PFI・発注者支援業務などの経験も積んできました。純粋な設計だけでなく、建築に関することについては、フットワーク軽く何でも気軽に相談を受けられる姿が、私の理想です。建築に関わる多くの関係者とともに、より良い建築づくりに導くことが建築家の役割だと感じていますので、JIAの活動で、幅広い視野を身に付けたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



一宮 嘉宏 (大分地域会)

この度、J I Aに入会いたしました一宮と申します。40歳を前に独立し、現在大分県を中心に住宅や商業施設、公共施設の設計に携わらせていただき活動をしています。

父親が工務店を営み、幼いころから手子(下まわりの仕事をする者)として僅かながら建築というものを経験した中で育ってきました。高校生の時に行った棟上げで、屋根仕舞いが終わった屋根の上に立った時、見渡す景色とクライアントはじめ、皆が笑顔になっている姿に感動し、もっと大きな視点で建物をとらえてみたら楽しいかも、と思ったことが建築設計へ進んだきっかけでした。

恥ずかしながら今でも、30年前の感情や光景といった抽象的なものをブレイクダウンし、設計活動しているように思えます。現在設計活動を行う中で、人間本来のいとなみ、自然のいとなみ対し、寄り添い、または向き合うことを大事にし、それらに対して建築表現の理解と共感を考えながら、今後も設計活動していきたいと思っています。

今回 J I Aに入会するきっかけとなったのは、大分地域会協力若手建築グループ(+Aプラス



エー)での活動を通じて、J I Aの活動を体験しながら、地域や文化に対しての先輩建築家の思考や思想を近くで感じる事ができたことが、私自身共感を受け入会に至りました。J I Aの活動を通して、地域の社会的・文化的な活動に対し、進化に貢献できたらと微力ですが思っています。どうぞよろしく願いいたします。

今後の支部活動内容をお知らせします。

DESIGN REVIEW2021のお知らせ

本大会は、建築の諸分野において、その最前線で活躍をしている方々をクリティークとしてお招きし、クリティークと出展者が議論を交わすことで新たな価値観やアイデアが生まれる場になるという願いを込めて活動しています。本年度も多くの人が出会い、熱心に議論し合える場をつくることで、現代建築・都市デザインに関わる人々にとっての刺激となるべく「デザインレビュー2021」を開催いたします。

本年度のデザインレビューの大会テーマは「玲明」です。「玲」には互いの議論をぶつけ合い美しい音を奏でてほしいという意味を込めました。そして、新型コロナウイルスの影響により、未だもとの生活に戻ることができず、人と交流する機会や自己表現する機会が減っている現状で、各々が未来へ輝く機会になると共に、建築に関わる人々にとって夜明け（黎明）の光のようなきっかけとなることを願っています。

デザインレビュー学生実行委員長 板谷尚樹



**DESIGN
REVIEW
2021**

2021.3.7sun~3.8mon
アイランドシティ中央公園
ぐるんぐるん

古森弘一 高木正三郎 中川エリカ
畑友洋 百枝優 (敬称略 50音順)

応募資格: 大学・大学院・短大・専門学校で、建築・都市・ランドスケープについて学んでいる学生。(大会当日の2日間、参加可能な方。)
応募方法: 下記期間中に大会HPより予選登録を行ってください。
登録期間: 2021年 1月18日(月)~2月5日(金)
予選提出: 出品作品を展示するためのポートフォリオ1枚(A3横使い・パネル化不可)
提出期間: 2021年 2月8日(月)~2月12日(金)

主催: デザインレビュー2021実行委員会
問い合わせ: info.designreview2021@gmail.com
共催: (公社)日本建築家協会九州支部

③ 本部委員会・特別委員会活動報告			
1	総務委員会	下山道男	
	第3回総務委員会 ・正会員資格要件に関する運用基準（デベロッパー、シンクタンク等） ・組織再編について（フレッシュマンセミナー、住宅等会議） ・苦情対応WGについて ・委員会規程の改定について ・文化財修復塾と日本建築まちづくり適正機構の提携について 臨時総務委員会 ・委員会規程の改定について ・正会員資格要件に関する運用基準（デベロッパー、シンクタンク等）		
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次	別添資料 ①
	・9月30日にブルテンVOL2を発行しました。ブルテンVOL3を12月25日に発行予定です。（別紙参照①） ・HPの改善点等を各地域会に問いかけて期日を切って意見を求める予定です。（別紙参照①） ・ホームページやSNS更新を行いました。		
3	教育委員会	田中康裕	
	10月3日 2020卒業設計コンクール、リモートにて開催。金、銀、銅賞、審査員賞、8作品を表彰。		
4	表彰委員会	鯨坂徹	
	報告事項なし		
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久	
	建築家資格制度実務委員会規則、細則、審査マニュアル改訂作業終了、10月の理事会に上程準備完了。理事会承認後、改定にのっとり登録建築家申請・更新作業開始（10月下旬から）		
6	財務委員会	柴田真秀	
	・9月29日webで行われました。今回もJIA 事業活動助成が主な議題		
7	業務委員会	和田正樹	別添資料 ②
	第202回業務委員会(Web)会議開催 1. CMガイドライン総括と今後の課題 2. パンデミック対応WG中間報告(上垣内主査) 3. 改正意匠法の概要とポイント		
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員会	田中康裕	
	報告事項なし		

③ 本部委員会・特別委員会活動報告			
1	総務委員会	下山道男	
10月16日 建築家登録制度マニュアルの改定について、委員会規程の運用基準、会員の資格要件について基準を提示、オンライン会議の実態調査 11月9日 業務委員会建陪WG主査・表彰委員会ヒアリング、JIAスクールについて 11月26日 業務委員会約款WG・仕様書WG主査ヒアリング、建築家登録制度マニュアルの改定について、JIAでの印鑑制度の見直しについて			
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次	添付資料 1
20201105 拡大広報委員会WEB会議 参加：委員長、事務局、2支部（オブザーバー参加）本部HPへの掲載ルートを明確にする。JIA認定プログラム（CPD申請）確認用にシステムを改修中。ホームページNEWSコーナー更新及び会員名簿ページの修正。関東甲信越支部ブルテンへ寄稿を行いました。12月末にブルテンVOL 3を発行予定です。			
3	教育委員会	田中康裕	
報告事項なし			
4	表彰委員会	鯉坂徹	
報告事項なし			
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久	
11月9日実務委員会・資格制度委員会合同会議開催。10月中旬より登録建築家の新規募集、更新手続き作業開始。			
6	財務委員会	柴田真秀	
報告事項なし			
7	業務委員会	和田正樹	
報告事項なし			
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員会	田中康裕	
11月18日 委員会開催（2021卒コンに開催について）			

報告事項

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	
	報告事項なし		
2	JIA保存再生会議	田島正陽	
	報告事項なし		
3	文化財修復塾	鯨坂徹	
	<ul style="list-style-type: none"> ・支部活動報告（関東支部が現地講習のWEB配信を予定）、他支部は検討中。九州支部は加世田麓で小人数の現地講習会を企画中 ・日本建築まちづくり適正支援機構との提携について（文書は交わさないが協力を行う） ・塾修了者のメーリングリストについて ・呼称 ヘリテージアーキテクトの推進 ・イギリスの修復建築家事情について ・修復塾のテキスト制作について（これまでの資料をまとめる） 		
4	文化財ドクター	柴田真秀	
	・報告事項なし		
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
	報告事項なし		
5-2	・JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
	<p>下記の建築相談に対応しました。</p> <p>10月8日福岡 一般 糸島に注文住宅を購入する前に設計図、見積書を見てもらい、値段が妥当であるか相談にのっていただきたい。</p> <p>10月8日福岡 一般：約30年前に開発された住宅団地の中長期修繕計画について</p>		
6	JIA環境会議	福田展淳	
	報告事項なし		
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
	報告事項なし		
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
	報告事項なし		
9	国際委員会	佐々木寿久	別添資料 ③
	<ul style="list-style-type: none"> ・10/16 オンラインセミナーが行われます。 ・第1回は日建設計 竹馬会員がリーガ・エスパニョーラFCハルセルロホームスタジアム(カンパノ)のコンパ当選に至る経緯と設計コンセプトをお話になります。(ZOOM)時間は調整中 ・北福岡地域会 日韓学生ワークショップが行われます。9日の委員会で補助金についての協議がなされました。 		
10	業務委員会パンデミックWG	柴田真秀	
	ほぼ毎週webで行っております。理事会資料に添付あり		
11	デザインレビュー	佐々木寿久	
	運営を検討中		

報告事項

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	添付資料 2
	11/20 WEB会議 ①SDGs四会議合同会議に関する災害対策会議としての提言協議 ②JIAホームページの活用方法について（今後協議） ③災害対策会議全国メンバーのLINE共有（ほぼ構築済み） ④災害ネットワークの名簿作成について（今年度内に作成予定） ※名簿記載は支部長・災害対策委員長・各地域会の代表者及び災害対策担当者 ※所属・氏名・携帯番号・メールアドレスを記載予定 ※リストは本部で保管し、自治体や会員からの求めに応じて情報開示する ※HP等への情報UPはしない。 ※後日、議長の内野さん（四国支部）から支部に案内メール及び同意書が届く予定 ※同意後、原田にてリスト作成の上、災害対策会議でとりまとめ本部提出 ※リスト案は別紙参照		
2	JIA保存再生会議	田島正陽	
	報告事項なし		
3	文化財修復塾	鯉坂徹	
	10月14日 現地講座のオンラインについて、今年度の受講申し込みについて、修復塾修了者のメーリングリスト作成、修復塾テキストの作成について 11月18日 文化財保護センターの件、四国支部現地講座（2020/11/14）、関東甲信越支部現地講座（2020/11/21）、近畿支部現地講座（2021/1/16）、ヘリテージアーキテクト（呼称）について、安田家保存について		
4	文化財ドクター	柴田真秀	
	報告事項なし		
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
	報告事項なし		
5-2	・JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
	下記2件の建築相談に対応しました。 11月4日宮崎 一般 契約前のプレゼンに対する費用について 11月6日鹿児島 一般 駐車場のコンクリートが浮く現象について		
6	JIA環境会議	福田展淳	
	報告事項なし		
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
	報告事項なし		
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
	11月21日本部より3名の委員が鹿児島県の2件の建物の現地審査を行った。対応は鹿児島地域会の25年賞委員と地域会会員5名で行った		
9	国際委員会	佐々木寿久	
	<ul style="list-style-type: none"> ・10/16 国際Webinar「カンパ・ノウの設計から(スペイン)」を開催 ・11/13 国際委員会(WEB)にて実施 ・11/20 国際Webinar「フランス歴史的建造物修復について(フランス)」を開催 ・12/18 国際Webinar「ポルトガルにおける建築設計」を開催予定 19:00～(Zoom) 		
10	業務委員会パンデミックWG	柴田真秀	
	報告事項なし		
11	デザインレビュー	佐々木寿久	
	2021/3/13, 14グリーングリーンで開催予定。審査員も含め会場に集合しWEBでの開催も検討中		
12	小規模建築WG	佐々木寿久	
	・小規模建築設計事務所の今後の経営について、話し合いを進める事となりました		

活動スケジュール

○9月

11日：日韓合同ワークショップ課題・応募要項の発表
 12日：九州支部第4回役員会
 →Web会議（参加者：金子、塩釜、松島、杉野）
 14日：第7回WS実行委員会 開催（集合形式）
 15日：九州設計4団体 懇談会 福岡県事前協議（Web形式）
 25日：第8回WS実行委員会 開催（Web形式）

○10月

5日：九州設計4団体 懇談会（集合・Web併用形式）
 12日：第9回WS実行委員会 開催（集合形式）
 14日：北福岡地域会第5回役員会
 ：北福岡地域会第1回例会（集合・Web併用形式）
 15日：第10回WS実行委員会 開催（Web形式）
 ※韓国先生参加（作動確認）
 17日：九州支部第5回役員会
 →Web会議（参加者：金子、松島、杉野）

18日：日韓合同ワークショップ中間講評会

○11月

4日：北九州市6団体連絡協議会→賀詞交歓会開催について
 15日：日韓合同ワークショッププレゼン動画公開→講評
 17日：第11回WS実行委員会 開催（Web形式）
 22日：日韓合同ワークショップ最終講評会
 27日：北福岡地域会第6回役員会（Web形式）
 28日：事務所協会児童絵画展表彰式参加

地域会長あいさつ

地域会長：杉野友紀

地域会のメイン事業である「日韓学生ワークショップ」を無事に開催する事が出来ました。コロナ渦での事業でありましたが、Webでのリモート方式の運営となりましたが、関係各位皆様のご協力、ご理解の下、滞りなく終えた事を感謝致します。事業を少し振り返って見ると、本年度はコロナ渦での開催となりましたので、まずは開催の是非から始まり、韓国の参加是非、開催手法等多くの初期条件からの検討を行って来ました。

結果として、例年の様に実際に一同に集まり、議論するような熱量はありませんでしたが、学生実行員会が開催出来た様に、課題検討の協議の段階で、講師と学生達が実際にやりとり出来たのは、リモートだから可能であったと思っています。

また、今回の講評会もLive動画で配信し、かつ録画配信も行っているため、当地域会FBにも1300名のアクセスと400回程度の再生があり、改めてネット環境を通して、地域会事業を公開できたことを嬉しく思っています。

今回はネット開催による視聴者側のストレスを少なくするため、動画再生でのプレゼントとしましたが、公開という視点で見ると（もちろん学生の頑張りが大前提ですが）プレゼン動画も美しく再生されており、他の全国的な講評会と比較しても、大変良く出来たと感じています。

来年以降、どのような社会状況で、どのような形態で開催出来るのか分かりませんが、当地域会として本事業を実施した経験は今後の活動に繋げていけると思っています。

北福岡地域会第1回例会及び勉強会

■日時：令和2年10月14日水曜日18：00-20：00

■場所：Web会議（集合型・Zoomでの併用開催）

■参加：安東、浅田、大橋、小原、加藤、金子、熊谷、後藤、佐久間、塩釜、高浜、戸村、豊川、永澤、服巻、藤本、松岡、松島、三迫、杉野（ハッチはZoom参加）

●例会（第1部）

○協議事項

- ・九州支部地域会規約の作成に伴う北福岡地域会規則の変更→次年度審議
- ・2021年度JIA九州支部大会の主幹に関して

○報告事項

- ・北九州設計6団体協議会について
- ・九州設計4団体懇親会について
- ・日韓合同WSの開催について
- ・会員動向

●勉強会（第2部）

- 1.「木造ビル構造標準モデル」の紹介：松島
 - 2.日韓学生ワークショップの案内：杉野
- ☑年度の課題説明（中山氏、学生達の協議動画視聴等）
- ☑Webでのリモート運営の組織構成について
- 3.リモート参加のための基礎知識の説明：安東、金子



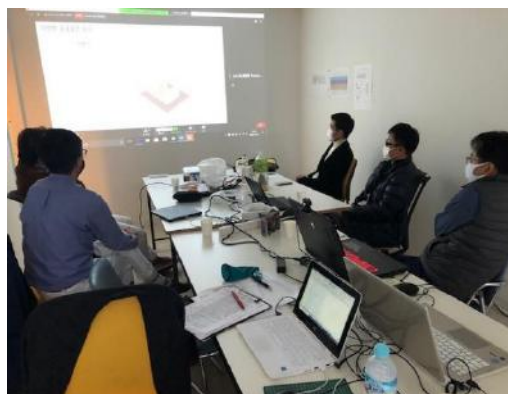
「日韓学生ワークショップ中間講評会」

○課題：「私から始まる公共空間」
 ○日時：10月18日（日）10：00～16：30
 ○参加大学：九州工業大学、九州産業大学、北九州市立大学、近畿大学、日本文理大学、慶星大学、東西大学、東亜大学、釜慶大学、釜山大学
 ○指導者：中山英之（JIA新人賞受賞者）
 ○内容：課題に沿った提案の中間講評会。各大学が中間時までの提案を、パワーポイント等を使って発表し、中山先生がそれに対する指導を行う。主な目的はワークショップのため、中山先生からの指導時間が長く取れるように運営を構成した。Zoomを用いたWebでのリモート開催であったため、Liveでの動画配信や自動翻訳での字幕等にもチャレンジした。



「日韓学生ワークショップ最終講評会」

○課題：「私から始まる公共空間」
 ○日時：11月22日（日）10：00～17：30：最終講評会（講評及び賞授与）
 ○最終結果
 ・最優秀賞：九州産業大学
 ・優秀賞（JIA九州支部賞）：釜山大学
 ・中山賞（佳作）：日本文理大学
 ・日韓WS賞（佳作）：釜慶大学
 ・JIA北福岡地域会賞（佳作）：九州工業大学A
 ○参加大学：九州工業大学、九州産業大学、北九州市立大学、近畿大学、日本文理大学、慶星大学、東西大学、東亜大学、釜慶大学、釜山大学
 ○講評者：中山英之（JIA新人賞受賞者）、松山将勝（JIA九州支部長）、尾道先生
 ○内容：課題に沿った提案の最終講評会。提案への講評が主な目的のため、中山先生に加え、松山支部長と尾道先生を講評者に加える。発表環境の違いによるプレゼンのハンディを無くすため、事前プレゼン動画による講評を主とした。当日講評会はWebでのリモート方式。提案動画再生は運営側で行ったため、Live動画配信も問題なく実行出来た。



「日韓学生ワークショップ最終講評会」

- 各大学発表について（発表順概略）
- ・日本文理大学→共同所有した土地に建物をたて、地域の公共（活動の場）として使う提案
 - ・九州産業大学→敷地境界である塀を操作する事により、境界を曖昧にし、公共を誘発する提案
 - ・九州工業大学B→膜を架ける事により、公共を生み出す提案。
 - ・慶星大学→屋台のあった通りにインフラ整備も含めた、簡易的な建築物設置による解決案
 - ・東西大学→人間間を区画している（精神面含）壁を再構築する事により、新たな空間を生み出す観念的な提案。
 - ・東亜大学→家と家との間に具体的な用途のある機能を入れる事により公共を生み出す案
 - ・九州工業大学A→バス停に着目し、地域の要求にあった機能を付加して設置する提案
 - ・近畿大学→農家の直売所を中心に機能に着目し、作業工程にあった建築物を提案
 - ・北九州市立大学→大学都市内に情報の発信も含む共有や世代間交流の場の提案
 - ・釜慶大学→伝統家屋に着目して、タイプの異なる長所を生かしたユニットで、コミュニティを誘発する提案。
 - ・釜山大学→伝統的な庭のあり方から発したリノベーションにより、非利用地を公共として生まれ変わらせる提案。



最優秀賞：九州産業大



優秀賞（JIA九州支部賞）釜山大學



JIA北福岡地域会賞（佳作）九州工業大学A

10月WEB例会 「第1回 設計事務所探訪」

公開例会はコロナ禍の影響により今回からWEBでのオンラインで行うこととなった。対面でのレクチャー方式とは異なり、WEB例会では建築家の設計事務所にJIA建築家が訪問し、アトリエ事務所の仕事の様子や近況のプロジェクト等を特に建築を学ぶ学生やスタッフそして県内外の建築家に紹介し、様々な刺激を与え合う場となることを目的とする。第一弾はSuzaki-Koen-Studioを取り上げた。Suzaki-Koen-Studioは建築家6名、不動産1名、映画活動家1名という構成でそれぞれが独立して活動している。個人の設計事務所とは異なり、様々なメンバーが集まることで生まれる創造的な活動がどのようなものであるかをJIA福岡地域会の建築家と活発なトークをしながら伺った。独立したての建築家と高い評価と実績を持つ建築家が同居しながらお互いを刺激し合う場や不動産、映画といった異なる職種とのコラボレーションなど単なるシェアオフィスとは違う緩やかな共同体のような新しいスタイルのデザインスタジオが生まれていた。トークが一通り終わるとスタジオ内にある進行中のプロジェクト模型の説明を受けたりと我々も刺激を与えられた。現在、Suzaki-Koen-Studioでは共同でプロポーザルに挑戦するなど今後の活躍が楽しみである。(担当：荻原聖治)



WEB例会風景



WEB例会後風景

建築倶楽部 「BIM推進協議会設立総会」

■日時：令和2年11月17日(火) 15:30～
 ■参加：建築倶楽部(福岡市設計8団体) 各代表者
 11月17日建築倶楽部BIM推進協議会設立会議に福田会長、有吉副会長が出席した。今年1月の建築倶楽部(福岡市設計8団体)役員会にて、BIM推進協議会立ち上げについて、各団体参加方向で意思確認をし、その後規約等について、JIA、事務所協会、建築士会を中心に打ち合わせを行い、この日設立総会が開催された。設計事務所の80%は所員2～3人の小規模事務所である現実を踏まえた上で、いかにBIM推進を進めていくか、意匠設計だけでなく、構造、設備、積算、CM、学会(教育機関)総合的に話し合われていく、画期的な協議会である。会は、システム部会、技術部会、実務部会に分かれ、それぞれに各団体より委員を選出し、この日各部会の顔合わせを行い、今後の協議の進め方を話し合った。今後は、国や地方自治体のBIM動向の情報発信や、BIM環境の現状の研究、情報発信、具体的なBIMセミナー開催等を行っていく予定である。まずは福岡市の建築倶楽部を母体に推進協議会を進めていくが、今後は九州全体でもそのネットワークを広げていければという話も出ている。(担当：田島正陽/福田哲也)



BIM推進協議会設立総会風景



WEB例会リーフレット

福岡市都市景観賞

6年前から行っている事業「『福岡市都市景観賞』を中心とした景観への意識高揚事業」の委託業務が前年度で契約期間を終了しました。今年度以降の業務委託としての福岡市プロポーザルに、2者JVにて新たに参加表明しました。12月初旬にプレゼンテーション及び事業者の決定となります。(担当:佐々木寿久)

福岡地域会役員会 (第5回)

■日時: 2020年10月24日 (土曜日) 18:00～19:30

■場所: 天神ビル11階

■参加人数: 12名

第4回役員会議事録確認

■審議事項

1.入退会について 物故会員 退会

JIA九州支部地域会規約(案)と福岡市都市景観賞にJVで応募を審議の上承認

■協議事項

1. 例会・協力会例会について

2. 建築展についてについて

3. 忘年会の開催について

4. その他

・建築相談について

・支部のオンライン化整備について

・SDGsセミナーの共催について

■報告事項

1. 会長報告 (福田地域会長)

・ジュニア会員の件

・日比生名誉会員のメダル授与式について。

2. 九州支部長報告 (松山支部長)

・来年度の本部理事選出について

・九州支部会員は263名(前年度末より5名減)

・建築家資格制度の改定について本部理事会で決議された

・本部の国際委員会の委員承認の件

・本部で企画しているSDGsフォーラム

3. 事業室報告 (田島室長)

4. 企画運営室報告 (村上室長)

・デザインレビューはクリエイティブ募集段階。

5. 大牟田市庁舎保存活動について (田島室長)

6. 年金基金について (鮎川会員、田中康裕会員)



役員会風景



建築相談定例会風景

会員交流「日比生名誉会員メダル授与式と昼食会」

・2020年10月26日(月)12:00～

「日比生名誉会員メダル授与式と昼食会」を行いました。

当日は現地域会役員の支部長経験者と共に受賞の喜びをお聞きするなど賑やかな食事会となりました。日比生先生も終始、和やかに当時のお話に花を咲かせておられました。

(担当:佐々木寿久)



日比生名誉会員メダル授与式風景

会員交流「オンラインによる年末のご挨拶」

・11月28日(土)に開催予定となっていました福岡地域会忘年会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して中止となりました。

・11月28日(土) 17:30～(30分程度)

「JIA福岡地域会役員/協力会会長、オンラインによる年末のご挨拶」をオンライン(ZOOM)にて行います。

ZOOM: <https://us02web.zoom.us/j/81408285694>

(i-フォン等から入る方はこちらでそのまま入れます)

ミーティングID: 814 0828 5694

パスワード: なし (担当: 佐々木寿久)

建築相談室

建築相談室では事務局と市役所にて月3回建築相談を受け付けています。11月相談対応はありませんでしたが11月27日に建築相談定例会を事務局にて行いました。10月の住宅団地中長期修繕計画の相談報告と建築相談員の結露事例の勉強会を開催しました。終了後は懇親会を開催しました。相談会定例会には長年相談員を務められている経験豊富な会員が参加されるため、今後の相談活動に活かしていきたいと思っております。(参加者: 永田・加藤・武本・樋口・川津・西村・有吉 計7名)

■ 2020年度JIA長崎地域会総会

- 日時 2020年4月3日(金) 17:00～
- 出席 会員数21名 出席者13名 委任状4名 計17名
書面評決にて総会を開催

□新役員構成

相談役 佐々木 信明 建築家資格制度実務委員会担当
 地域会長 田中 健一郎 総務委員会担当・JIA災害対策会議担当
 副地域会長 鼻崎 象三 広報委員会担当・JIA25年賞委員会担当
 副地域会長 松本 隆之 JIA保存再生会議担当・デザインレビュー
 高校生レポーター派遣事業担当

幹事 中野 善弘 JIA環境会議
 木場 耕志 JIA建築相談会議担当
 三好 定和 JIAまちづくり会議担当
 会計幹事 中村 信夫 会計担当
 監査 奥村 信幸
 山田 宏彰

今年度の総会はコロナウイルス感染拡大防止の理由から書面評決方式により開催し、役員改選を支部と足並みを揃える為に行いました、会員や地域社会へのアプローチ事業を継続して進めて参ります。

■ 2020年 第1回例会・建築技術セミナー

- 日 時 2020年5月11日(月)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、本部報告
- 2、支部報告
- 3、2020年度の長崎地域会事業計画について
- 4、地域会規約について

第1回目の例会・技術セミナーはコロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■ インターンシップ事業

- 受入期間 4月8日～4月27日
- 株式会社三省設計事務所：田中健一郎 受入
九州大学芸術工学部環境設計学科 3年生1名 受入



■ 2020年 建築技術セミナー(2)見学会

- 日 時 2020年6月28日(日)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、長崎駅舎の見学会はコロナウイルス感染拡大防止のため中止
- 2、支部報告
- 3、地域会規約について

第2回目の例会・技術セミナーはコロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■ 2020年 街並み研修in対馬

- 日 時 2020年8月26日(水)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、街並み研修in対馬はコロナウイルス感染拡大防止のため中止
- 2、支部報告
- 3、地域会規約について
- 4、JIAまち並みレビューの募集について
- 5、インターンシップ事業について
7名の会員が実施及び実施予定

コロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■ 2020年 役員会・勉強会

- 日 時 2020年10月19日(月)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、役員会・勉強会はコロナウイルス感染拡大防止のため中止
- 2、支部報告
- 3、地域会規約について
- 4、デザインレビュー2021高校生レポーターについて
- 5、JIA建築家賠償責任保険の勉強会について
- 6、会員について(森田健太郎会員が福岡へ異動)

※ 11月12日(木) 3役会
コロナ過における長崎地域会の活動方針について

■令和2年度 木の匠育成事業 木構造設計講習会

大分県では、豊富で充実した森林資源を積極的に活用し、林業・木材産業の活性化と健全な森林の維持増進を図ることを目的に、地域の木材を使用しての住宅や店舗など幅広い木造建築を推進する建築士等（「大分県木造マイスター」）の育成に継続的に取り組まれています。

その趣旨を踏まえ、大分県内の建築士等を対象に、新たな「大分県木造マイスター」育成のため、小規模および中大規模木造建築設計や最先端の木構造・木質材料、木材の知識や製材・集成材の加工や流通、木造の耐火火や構造計算・省エネなど、木造建築設計に必要な内容についての講習会（基礎講座・応用講座）を、JIA大分地域会が大分県からの委託を受け、開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度新規受講生は8名でしたが、前半はWEB講座が中心となりましたが、WEB講座・対面講座共とても充実した内容の講座となりました。

◆講座一覧

【基礎講座】

- <第1回> 令和2年9月8日（火）13:00～16:30
 講座1 木造建築の現況／ミラクルパートナーシップ（有） 三浦逸朗氏
 講座2 木組みと流通材による中大規模木造の構造デザイン
 ／東京大学 教授 稲山正弘氏
- <第2回> 令和2年9月14日（月）13:15～16:45
 講座3 新たな木質の活用について／芝浦工業大学 青島啓太氏
 講座4 最先端木構造について／京都大学 教授 五十田博氏
- <第3回> 令和2年9月23日（水）13:00～16:30
 講座5 JAS材の運用の注意点／藤田KK事務所 藤田和彦氏
 講座6 最先端の木質材料について
 ／東京大学 准教授 青木謙治氏
- <第4回> 令和2年10月16日（金）13:00～17:00
 講座7 佐伯型循環林業について／佐伯広域森林組合（現地視察）
- <第5回> 令和2年10月22日（水）13:00～16:30
 講座8 環境の時代に改めて木造建築のありようを問う
 ／近畿大学 教授 岩前篤氏
 講座9 木造建築の耐火火について／桜設計集団 安井昇氏
- <第6回> 令和2年10月27日（水）13:00～16:30
 講座10 木質構造の耐力要素のディテールと構造計画
 ／(株)木質構造計画ラボ 北村俊夫氏
 講座11 木造建築物の施工管理／(一社)日本CLT協会 塩崎征男氏

【応用講座】

- <第1回> 令和2年11月10日（火）13:30～16:30
 「中大規模の木造建築における設備設計の実践」
 近畿大学 教授 岩前篤氏
 (株)EE設計 金田勝美氏、ミラクルパートナーシップ（有） 三浦逸朗氏
- <第2回> 令和2年12月1日（火）9:00～12:00
 「今後の中大規模の木造建築における設計の課題」
 秋田県立大学 名誉教授 飯島泰男氏、日本文理大学 教授 井上正文氏
 京都大学 教授 五十田博氏、東京大学 准教授 青木謙治氏
 秋田県林業木材産業課 柴田悟氏、間建築設計事務所 堀井圭亮氏
 ミラクルパートナーシップ（有） 三浦逸朗氏
- <第3回> 令和2年12月1日（火）13:30～16:30
 「中大規模の木造建築における構造設計の実践」
 秋田県立大学 名誉教授 飯島泰男氏、(株)木構堂 渡邊須美樹氏
 京都大学 教授 五十田博氏、東京大学 准教授 青木謙治氏
 PRAISE一級建築士事務所 松島逸人氏、北九州市立大学 福田展淳氏
 ミラクルパートナーシップ（有） 三浦逸朗氏、きいぶらん 山下智氏

◆講座状況

基礎講座 第1回



基礎講座 第2回



基礎講座 第3回



基礎講座 第5回



基礎講座 第4回



基礎講座 第4回



基礎講座 第6回



基礎講座 第6回



応用講座



今年度修了生



◆最後に

コロナ禍の中、今年度本講座を修了し「大分県木造マイスター」となった方は8名でした。大分県では、来年度も同様の事業を継続し、木造・木質の建築設計者の育成に取り組みたいとのご意向です。JIA大分地域会としても、可能な限りご協力したいと考えています。

■2020年度 第7回例会

日時 2020年11月17日（火） 19:15～20:00
 場所 コンパルホール・304教室
 出席者 22名

JIA会員 出席 7名、委任状 11名、欠席 1名（18/19）

協会会員 15名、県外会員 0名、+A会員 1名

議事録作成者 松田周作会員

議事録署名者 足立心也会員



◆内容

1. 確認事項 高橋幹事
 出席者人数の確認を行った。
 会員数19名の内、出席者総数18名（委任状による出席者数11名含む）、欠席者1名により、例会が成立する。

2. 会長挨拶 重田会長

3. 報告事項

○確認事項 重田会長

- 九州設計4団体災害対策ネットワークワーキンググループに、JIA大分地域会の代表して重田会長が参加予定
- 12月1日に、令和2年度木の匠育成事業木構造設計講習会／応用第2回・3回予定
- (株)アダル様の協力会員への入会申込の大会は承認済、九州支部と本部の承認待ち

○報告事項 竹宮副会長

- ARTPLAZA U_40 建築家展への大分地域会からの支援実施の報告
- +Aの活動費の支援継続の確認
- 学生支援のアルバイト募集のHP掲載の修了の確認

○担当変更会員紹介 重田会長

LIXIL 中谷剛士様：自己紹介・挨拶・案内
 オンラインイベント NEXT ANSWER LIXIL 2021 online
 12月7日（月）～12月11日（金）

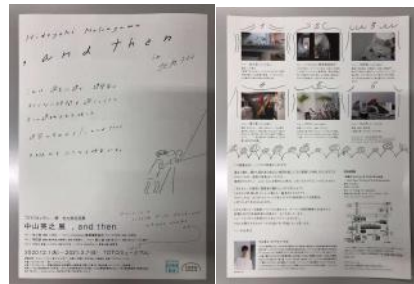


○大分地域会

令和2年度木の匠育成事業木構造設計講習会／応用第1回の開催報告
 令和2年度木の匠育成事業木構造設計講習会／応用第2回のご案内
 令和2年度木の匠育成事業木構造設計講習会／応用第3回のご案内

4. その他

TOTOミュージアム | 2020年12月1日(火)～2021年3月7日(日)
 TOTOギャラリー・間 北九州巡回展
 中山英之展 , and then



シネマ5 | 11月14日(土)～11月20日(金)
 映画「建築と時間と妹島和世」



5. 例会企画 商品紹介

(株)薬秀 瀬口利水様：自社PR



大分地域会の協力会員・(株)薬秀の瀬口利水様より、(株)薬秀の会社の紹介、取り扱いの商材についてご説明を頂きました。コロナ禍で、建築に要求されることが予測される様々な状況や性能に対応した各種製品が開発・準備されていることが理解できました。

てらすガイド



AXIEZ-LINKs



ELE FIRST-i plus



YKK AP



6. 閉会

竹宮副会長より閉会の辞があり散会しました。

竹宮副会長

■2020年度 第6回例会

日時 2020年10月20日(火) 19:15~20:00
 場所 J:COM ホルトホール大分 409会議室
 出席者 29名
 JIA会員 出席 9名、委任状 6名、欠席 4名 (15/19)
 協力会員 15名、一般 5名
 議事録作成者 足立心也
 議事録署名人 松田周作

◆内容

1.確認事項 高橋会員
 出席者人数の確認を行った。
 会員数19名の内、出席者総数15名(委任状による出席者数6名含む)、欠席者4名により、例会が成立する。

2.報告事項 重田会長
 ○会長挨拶

○新入会員紹介
 ・大分地域会へ山崎会員、一宮会員の2名が新会員として今月の例会より参加されています。今月は山崎会員にこれまで手掛けてこられた作品を紹介していただきました。来月の次回例会で一宮会員にも作品紹介をしていただく予定です。
 ・協力会員として新たに(株)薬秀様が加入予定で、本部へは申請済みとのことです。

○支部役員会の報告
 ・本年度は全国大会が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。現在それに代わる企画について検討中とのことです。内容は未定のため決まり次第報告します。
 ・現在九州支部で地域会規定を製作中です。できましたら後日メールにて内容を送り、大分地域会の会員の方にも承認をいただく予定です。
 ・現在本部にて正会員の入会要件の見直しをしているところです。
 ・建築家賠償責任保険(ケンバイ)の勉強会を検討中です。

○大分地域会
 ・九州設計4団体の会合の報告がありました。会合はZOOMにて行われ、災害時のネットワーク構築に向けて今年度よりワーキンググループが設立され、JIAが幹事となっています。

○木の匠事業
 ・10月16日に第4回の講座として佐伯広域森林組合様のご案内で山や工場の視察を行いました。引き続き、22日に第5回、27日に第6回の講座が開講予定です。



3.その他

・+Aの甲斐さん、原さんより11月に大分市アートプラザにて開催予定のU_40建築家展2020の案内がありました。
 JIA大分地域会として今年も協賛金を出す予定です。

4. 例会企画

①作品紹介 YamaDesign 山崎真司氏
 大分地域会新会員のYamaDesign 山崎真司氏よりこれまで手掛けてこられた作品を紹介していただきました。



②自社PR 豊生商事様
 協力会員の豊生商事様より自社商材の紹介をしていただきました。



4.閉会 竹宮幹事
 竹宮副会長より閉会の辞がありました。

■次回2020

日時: 2020年11月17日(火)
 場所: 未定(後日連絡)

熊本地域会月例会（第6回、第7回）

■日時：令和2(2020)年10月22日木曜日18：30-20：00

■参加人数：12名

1.審議事項、協議事項

1-0：（追加協議事項）建築課作品展、紹介冊子の作成について
→業界向けデジタル媒体として作成

1-1a：地域会規則の制定について（10月支部役員協議事項）
→継続協議

1-1b：支部規約の内容について、地域会規則の内容について
→継続協議

1-2：入会申込申請書に対する要望について
→要望書を支部に提出する

1-3：熊本県に対するJIA連携への要望書について
→継続協議

1-4：年末の忘年会、来年の新年会について
→感染対策の取れた飲食店で行う

1-5：7月豪雨災害への支援金205,000円の用途について
→継続協議

2.報告事項、確認事項

2-1：第5回支部役員会について →報告

2-2：建築関係4団体懇談会の結果について→報告

4.その他

5. 第4回 C P D 認定講座

6. 閉会

■日時：令和2(2020)年11月26日木曜日18：30-20：00

■参加人数：12名

1.審議事項、協議事項

1-1：建築課作品展、紹介冊子の作成について
→1月中にデータ送付、3月完成

1-2：地域会規則の制定について（継続協議事項）
→協力会員は不要、それ以外は継続協議

1-3：支部規約の内容について（継続協議）
→異議なし

1-4：熊本県に対するJIA連携への要望書について
→継続協議

1-5：年末の忘年会、来年の新年会について
→感染対策の取れた屋外席で実施

1-6：7月豪雨災害への支援金205,000円の用途について
→人吉の登録文化財の復旧・調査などに係る記録誌の作成に使う事で決定

1-7：雑誌掲載の企画についての紹介
→紹介のみ

2.報告事項、確認事項

2-1：建築関係4団体懇談会（熊本県内）の予定について →報告

2-2：次回C P D 認定講座について（古川さんて→報告

2-3：デザインレビュー2021地域会担当の件→報告

2-4：入会申込書についての要望書→報告

4 その他

CPD講座第4回 私を語る

■日時 令和2(2020)年10月22日 20:00-21:00

■場所:熊本市市民会館会議室

■講師:JIA熊本地域会 吉永氏

「私を語る」とい題名にて、吉永さんが作ってきて建築作品について話して頂きました。

久米設計と一緒に取り組んでいる水俣庁舎や、個人で取り組んでいる保育園、住宅等の話をして頂きました。大変刺激になりました。



CPD講座第5回 Mポート

■日時 令和2(2020)年11月26日 20:00-21:00

■場所:熊本市市民会館会議室

■講師:JIA熊本地域会 梅田氏

「Mポート」について、設計から現状について講話頂きました。コーポラティブハウスという集合住宅の形態で、熊本で唯一の取り組み。設計段階でのコミュニティーの形成から、現代の地域を巻き込む運営の形態、これまでの25年の歩みとこれからの将来像について説明頂きました。25年賞には残念ながら選ばれなかったものの、運営方式や建築の形態等非常に刺激になりました。こんなに結びつきの強いコミュニティーを形成する集合住宅はないのかもしれないと思うほど、住民同士の繋がりが強く維持管理も適正に行われていた。本当に感銘を受けました（林田）建築のハードもソフトが評価されるべき建物だと思います。



第3回 JIA_Kagoshima オープン・レクチャー

鹿児島地域会では、2020年から会員並びに一般の方々や学生を対象としたオープン・レクチャーを開催しています。

第1回は6月19日、蓑田満康会員による「わたしの建築」と題したレクチャーを開催いたしました。

第2回は8月18日、堀口讓司教授による「劇場空間のコスモロジー」と題したレクチャーを開催いたしました。

今回、第3回として10月9日、建築家が自作を語るレクチャーとして、鹿児島工業高等専門学校の高安重一准教授に登壇いただきました。

高安重一氏はこれまで東京理科大学の助手をつとめられ、その後有限会社アーキテクチャー・ラボ代表取締役として多くの建築作品をつくってこられ、優れた住宅作品や共同住宅のプロジェクトを手掛けられており、敷地条件やクライアントの要望を踏まえた、独創的なデザインについて語っていただきました。

「敷地とクライアントからの発見」の題名にて、諸条件を踏まえたひとつひとつきちんと建築的な解を見つけていく手法を、多くの実例を踏まえて、非常にわかりやすく興味深い内容を講演いただきました。

質疑応答も活発にやりとりされ、学生や建築関係者から高安氏の設計手法について、するどい質問が聞かれました。

参加者は学生、一般が21名、JIA関係者が7名でした。

Web配信も試み、Zoomにて6名程が参加しました。

尚、検温、消毒、密を避けるなど感染対策も実施しています。

今後は、コロナ禍の状況ではありますが、Web配信を含め広報活動、方法を模索、協議しながら、より多くの方々に参加いただけるような体制作りを行う予定です。



編集後記

今年の6月、福岡地域会 日比生正さんが名誉会員に、北福岡地域会 鈴木基正さんがフェロー会員になりました。称号授与本当におめでとうございます。先輩たちの活動・思いが今の九州支部の力強い礎になっていることを感じます。鯉坂さんのおしえて「仏壇が呼んだ、、、加世田麓のまちづくり」では仏壇の処分というきっかけから始まったまちづくりを紹介いただきました。そのきっかけが行政、地元、研究者などさまざまな専門家が協力して重要伝統的建造物群保存地区に指定され、そして未来へまちなみが継承されていくことにご先祖様も喜ばれているのではないのでしょうか。野中さんの「祐徳門前街なみ環境整備計画2018」では地元の建築家が団体の枠を超えて協同し、地元の未来の景観を創造していく。そしてその活動がライフワークになることは素晴らしいことと思います。吉武さんの「あのごころ'91～'92JIA九州支部大会'92熊本の思い出～「いきいき九州の建築家たち」～」では初の支部大会開催の逸話を垣間見き、創生期当時の先輩方のJIA愛を感じることができました。会員数は減少傾向ですが次世代が先輩方の熱量を引き継いでいきたいと思えます。三迫さんのよかもん「この北九州（まち）のために」では地元北九州愛とサッカー愛、そして奥様への愛を感じ、ホックリ優しい気持ちとなりました。西さんの「インドを訪れて」では世界遺産、仏教建築、近代建築が多数点在するインドの魅力を教えていただきました。海外旅行が難しいご時世ですが、インドが行ってみたい国リストのひとつとなりました。「わさもん」では新入会員の中條さん、久家さん、一宮さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。これからよろしく願いいたします。また来年3月に開催予定の「デザインレビュー2021」にも関心をお寄せいただければ幸いです。

今回もお忙しい中、執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

来年も会員の皆様に九州支部の様々な情報を伝え、読み応えがあり、そして会員同士のつながりがもてるような誌面づくりに努めてまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

広報副委員長 有吉兼次

